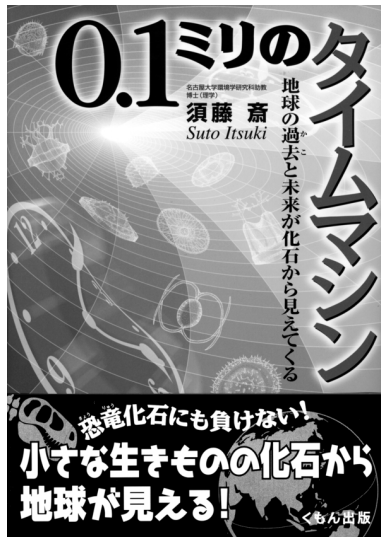


0.1 ミリのタイムマシン
—地球の過去と未来が化石から見えてくる—
(くもんジュニアサイエンス)
須藤 斎



くもん出版, 2008年11月1日発行, 135ページ, 定価1470円(税込), ISBN10:4774314365
ISBN13:978-4774314365

学問に携わるものにとって気になるものの一つは若手の育成である。ラテン語の諺 *Ars longa, vita brevis*. とあるように、学業は永遠かもしれないが、人生は過ぎ去るものであり、若手が育たなければどんなすごい学問であっても衰退してしまう。私がここで推薦するのは若手向けの好著である。ただし、若手といっても若い研究者や大学生を対象にしたものではない。もっと若い人—子供たちが相手である。

本書は、珪藻化石の研究を通して地球の歴史を垣間見るといった趣向の児童書である。珪藻の説明や著者の研究テーマである休眠胞子の研究を平易に書いている。クジラと珪藻の関係などは夢のある話で子供たちを魅きつけるだろう。学術的な話に加えて著者自身の研究生活や、北極調査航海での1ヶ月の船上生活、進路の迷いなど生の「研究者」の生活も書いてあり、研究者志望の若い人にも十分参考になる。本書の構成は次のとおり。

「はじめに」

- 第1章 ケイソウとはいったいななもの。
- 第2章 お休みケイソウに名前をつける。
- 第3章 ついに完成した分類。
- 第4章 「地球の時間のものさし」を使う。
- 第5章 北極からのレポート。
- 第6章 北極についての新発見。

第7章 研究者たちとの1ヶ月。
「あとがき」

本書はトピックを小分けにし、関連をもたせながら配置しているので、珪藻や地質学、調査船あるいは若手研究者についての包括的なイメージをもつことができるように構成されている。しかも、ところどころに余談を交え、子供が飽きないように工夫がなされている。ここでは、スケッチと進路の話について簡単に感想を述べる。

まず、バラバラと本書をめくってビックリするのはページの左上隅にある珪藻の休眠胞子化石のスケッチである。本書にはいくつもスケッチが掲載されているが、研究をはじめた頃の休眠胞子のスケッチと研究がまとまった頃のスケッチを見ると出来の違いにびっくりする(私も身に覚えがある)。スケッチは最近の機器分析的科学では軽視されがちだが、スケッチをちゃんと描けるということは、そのものの特徴をよく理解しているということである。このハイテクの時代にローテクが有効というのは逆説的だが、高精度の電頭による画像データは精巧かもしれないがそれだけでは「わかる」ということには貢献しない。分類学や記載の学は当然すぎて有難みを忘れがちで、著者も分類をやって何の役に立つか迷ったことがあったという。その時に、先生は「分類は科学のパイオニアでありフロンティアなんだ」と返したという。そして著者は誰も手がつけられなかった休眠胞子の分類を完成させる。これは大変な成果だと私は思う。

著者の学生時代が第2章で語られている。最初、著者は大学の卒業研究でいわき市産の貝化石を研究していたという。あまり楽しくなく早く終わらせたいという気持ちが強かったと著者は回想する。その著者が研究者になるのだから先のことはわからない。その研究で珪藻との(正確には珪藻研究者との?) 出会いが著者の人生を方向づけた。なんの変哲もない泥岩に含まれる珪藻を調べることによって、堆積した年代や古水深や古水温がわかる。それに魅せられて珪藻研究を志したという。本書では研究者としての悩みもところどころにちりばめられており、将来を不安に思う若手の参考になると感じた。著者は「偶然の積み重ねで今のわたしがある」という。おそらく偶然をうまく生かすこともその人の力量のうちなのだろう。また、偶然かもしれないけれど、そこには人と人とのつながりがあって、それが大切だと著者は結んでいる。

本書は産経児童出版文化賞(第56回, 2009年)の大賞を受賞した。子供たちに地質学のおもしろさを伝え、記載の学の重要性を訴える好著である。

(辻野 匠)